

# 西山茂夫教授のおもしろ語録集

外来、病棟において様々な西山教授の顔を拝見する事があります。ここではユーモアがあり、時に手厳しく、かつ優しい言葉の一部をおもしろ語録として御紹介致します。

〈診察室で思わず“ブツ”と吹き出してしまふ1こま〉

◎症例1：非常に長いこと通院している膠原病の患者さんの場合

患者「先生、私の病気は良くなるとおっしゃられましたがちっとも良くならないじゃありませんか。」

教授「この病気が良くなるのは、あなたのクスリの飲みかたが悪いんです。この病気は長くかかりますから。」患者さんは納得して？帰っていかれました。

◎症例2：足底の母班細胞母班の患者さんの場合

患者「先生これは悪性になっていく可能性は高いのですか？」

教授「それは宝くじに当たるより難しいね。」

患者さんがホッとしているのもつかの間、「でも、できた場所が刺激のあるところだから取ってしまった方がいいね。」

患者「先生、取ってしまうということは手術するということが大変なことですね。」と次は手術の心配。

教授「イヤはなくそほじくるのとたいして変わらないよ。痛くないし、手術の後すぐ歩けるから普通の生活していいですよ。」『6針程縫うので術後あまり歩かないように』とムンテラした初診医師は…………。



◎症例3：足白癬の患者さんの場合

患者「水虫の汚い足を触っていただくなんて申し訳ありません。」

教授「イエイエきれいなもんですよ。この手なんてなめたって大丈夫。」おっしゃりながら実は……。一生懸命白衣で手をふいておられました。

〈診察室の場面の最後は患者さんにとっては心強く思い、支えになる一言を〉

◎症例4：顔半分のあざをととも気に病む患者さんの場合

患者「いつも化粧で隠していますがいざ結婚となると駄目になってしまうのではないかと心配です。」

教授「イヤそんなことを気にするような男はこちらから願い下げですよ。そんな男がいたら捨ててしまいなさい。君はとっとも美人だから安心しなさい。大事なのは気持ちですよ。」後ろで聞いていた女医さんも一緒にホッとしていたとか。

〈回診での緊張のひとつとき〉

◎受持医Aの場合

A「この紅斑は4月からできておりまして薬の内服と関係があるようです。」

教授「先週聞いた。」

A「肝障害が出ておりまして…………。」

教授「それも聞いた。」

A「現在PSLを投与しております。」

教授「聞いた。新しい事教えてよ！／（注1）」

（注1）下線部分の歴史

昭和56年 新しい事ないの？

平成元年 新しい事教えてよ！／

平成6年 新しい事教えて下さい。

◎受持医Bの場合

〈よくある会話〉

B「ゴホゴホ”コンコン”しゃがれ声でプレゼンテーション。

教授「どうした。」

B「風邪をひいてしまいました。」

教授「風邪をひくのはたるんでいるからだノ！」

きびしい…。

〈時々する会話〉

教授“ゴホゴホ”“コンコン”

B「大丈夫ですか。お風邪をひかれましたか？」

教授「咳が出ているだけだよ、百日咳(注2)にちがいない。」……と言い張られたとか。

(注2) 下線部疾患は時代と状況により異なり、結核や上気道炎などとなることもある。

◎受持医Cの場合

C「外科のほうの意見としては…」

教授「外科のほうってどっちの方角？」

C「OPEのほうで治療したいと思います。」

教授「OPEのほうってどっち？君は方角好きだね。占い師なの？」

◎受持医Dの場合

D「放射線と相談してRadiationの適応を決めたいと思います。」

教授「放射線と何を話すの？」

◎受持医Eの場合

E「内科と相談したところ…」

教授「内科って何。内科と何を相談するの。」

◎\*色調\*を\*色気 イロケ⇔エロケ\*とい



う江戸っ子の受持医Fの場合

教授「この人はどうして滲出性紅斑と診断したの？」

F「エロケが紅色であるところから…」

教授「ん… エロケって何？どんないろしてると滲出性紅斑なの？」

F「鮮紅色のエロケです。」

教授「エロケって何？」

何度も尋ねておられたのは意味が分らなかったのではなく、相当エロケが気に入られたのでしょう。

◎回診時間について

時に回診がいつもの100倍くらいのスピードで進み、回診終了時間5分前に「君達が優秀だから今日は早く終わった。」と褒められることがあるが、きっと教授は何か予定があったに違いない。

〈番外編〉

※リポフスチンで高名なA先生へ

「こんなに長い間僕といたのにどうして子供ができないのかねー。」

※『〇〇欠乏症』という学会発表をした将来有望なK先生へ

「君は脳みそ欠乏症だね。」

※産婦人科のDrと医局員との結婚式で

「皮膚科が一番だよ。ひ・ふ・みは“ひふ”から始まるからね。産婦人科は3番だから、皮膚科のあとだね。“ひ”“ふ”があって“み”3…産がある。」

※「んっ、んっ、どうっ！！！」

まだまだ紹介しきれないほどいろいろなエピソードがありますが、それはまたの機会に。

